

連携計画の見直し素案 概要版

1.計画の概要

(1) 連携計画の目的

奈良中心市街地内での移動について、地域住民および公共交通事業者などの関係者が一体となり、総合的な検討を進めることにより、快適な公共交通環境を整え、公共交通を中心とした交通システムを構築し、地域の快適性向上と活性化を図るとともに、観光客の満足度向上と世界遺産など奈良の文化財や自然環境の保護を目指すものです。

(2) 計画対象区域

計画における対象区域は、奈良公園・平城宮跡・西ノ京などを含む奈良中心市街地（エリア1、エリア1.5、エリア2）

エリア1：交通の流入を抑制し、エリア内の駐車場の需要調整やエリア内での観光客の回遊性を高めるなどの施策を実施すべきエリア

エリア1.5：当面の対策エリアとして、交通の流入を特に少なくするため、優先的に施策を実施すべきエリア

エリア2：交通の流入をできるだけ少なくするため、エリア周辺でのパーク&ライド駐車場（バスライド、サイクルライドなど）の設置や周遊バスなど、移動の円滑性を確保するなどの施策を実施すべきエリア

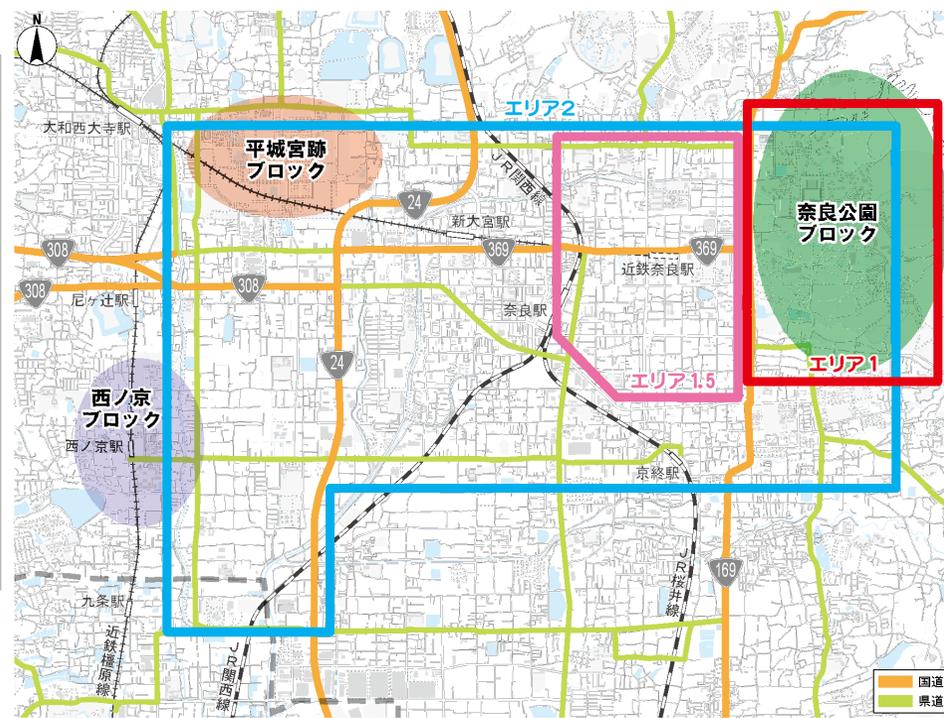


図 計画対象区域

(3) 計画対象期間

計画の対象期間は、**平成29度から平成31年度まで**の3ヶ年とします。

(1) 計画目標の達成状況

計画目標	目標値	目標達成状況	見直し方針
(1) 渋滞の緩和	平成28年度の大宮通りの平均旅行速度： 20 (km/h) 以上	平成26年度： 春期：東行20.8km/h、西行17.9km/h 秋期：東行17.9km/h、西行16.1km/h 平成27年度： 春期：東行19.8km/h、西行17.5km/h 秋期：東行19.2km/h、西行15.5km/h 平成28年度： 春期：東行20.4km/h、西行18.2 km/h 秋期：次年度確認	未達成 ※東行については達成 ○西行が目標未達成のため、 <u>引き続き計画目標として設定する</u>
(2) 奈良公園・中心市街地の移動環境の向上	平成28年度の観光入込客数： 1,500 (万人/年) 以上	平成26年度：1,414万人/年 平成27年度：1,498万人/年 平成28年度：次年度確認	未達成 ※概ね達成 ※H28値はH29年度に確認 ○奈良市総合計画においても同目標値が設定されているため、 <u>引き続き計画目標として設定する</u>
(3) マイカー通勤から他の通勤手段への転換	平成28年度のマイカー通勤から他の通勤手段への転換者割合： 20 (%) 以上	平成26年度：8% 平成27年度：11% 平成28年度： 27%	達成 ○目標達成のため、 <u>新たな計画目標を設定する</u>

(2) 主要施策の概況（利用状況）

- P&R駐車場は各駐車場とも一定数のP&R利用があり、ピーク時には平成28年秋期で512台の利用があり、増加傾向となっています。
- 木簡型一日乗車券の販売枚数は、増加傾向となっています。
- ぐるっとバスの利用者数は、増加傾向となっています。

P&R(パークアンドライド)の利用状況

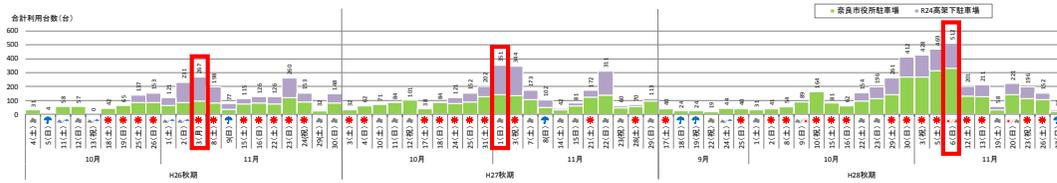


図 秋期P&R利用台数

木簡型一日乗車券の販売枚数

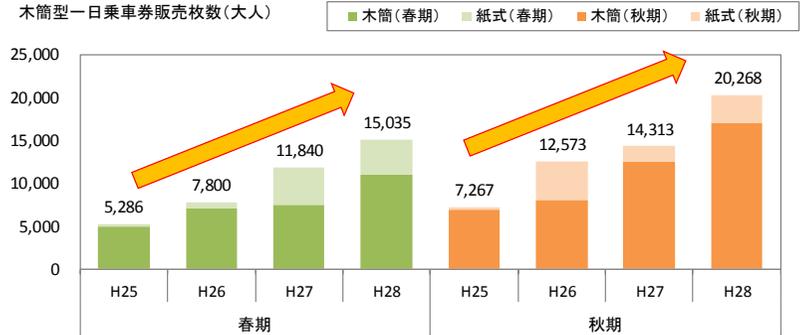


図 木簡型一日乗車券の販売枚数

ぐるっとバスの利用状況

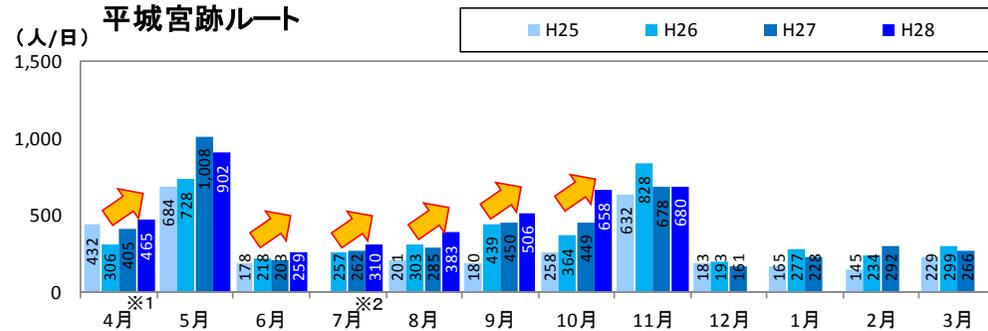
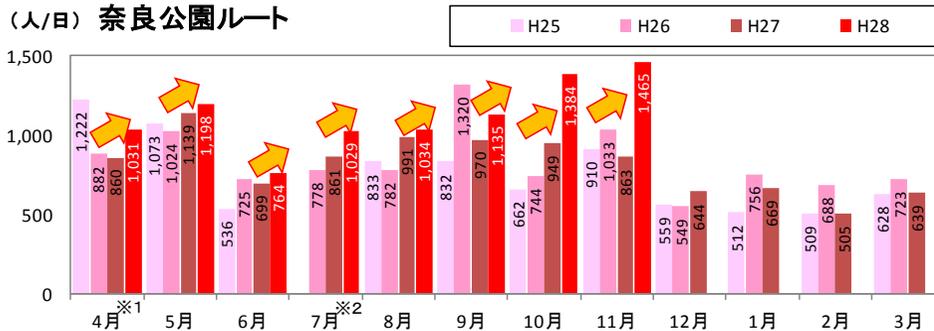
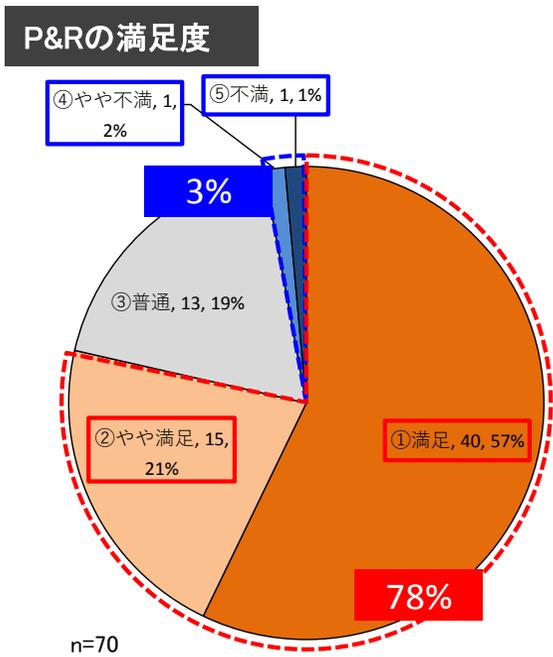


図 ぐるっとバスの平均乗車人員

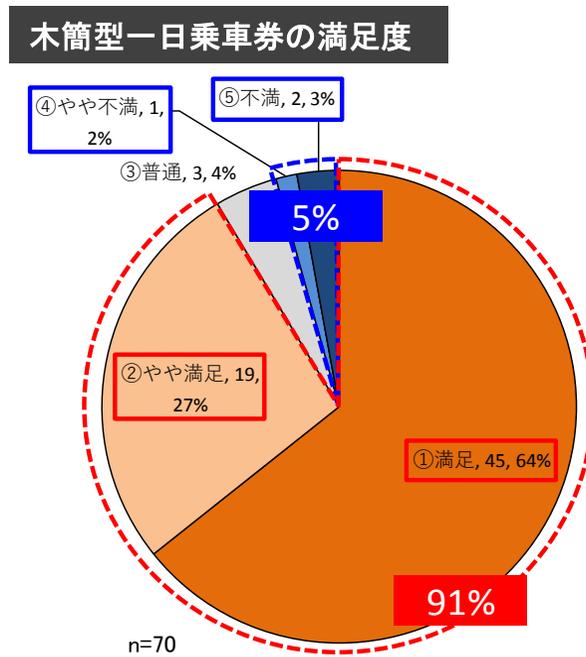
(2) 主要施策の概況 (満足度)

- OP&Rの満足度は、平成28年秋期の利用者の78%が「満足」または「やや満足」と回答しています。
- 木簡型一日乗車券の満足度は、平成28年秋期の利用者の91%が「満足」または「やや満足」と回答しています。
- ぐるっとバスの満足度は平成28年秋期の利用者の74%が「満足」または「やや満足」と回答しています。



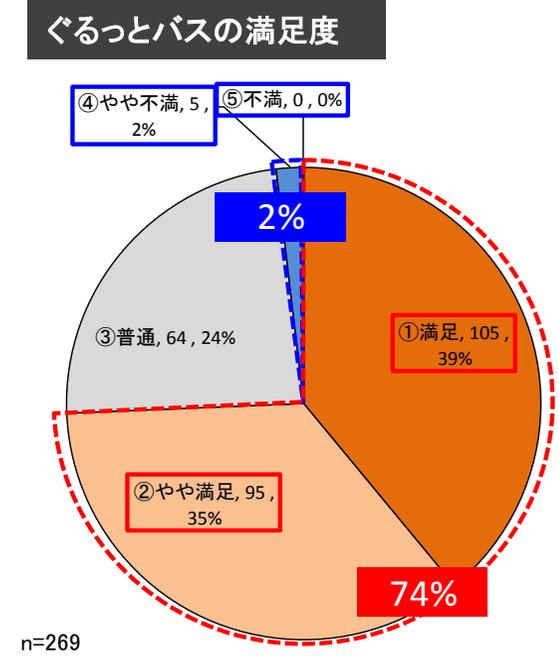
出典: H28秋期P&R利用者ヒアリング調査

図 P&Rの満足度



出典: H28秋期木簡型一日乗車券アンケート調査

図 木簡型一日乗車券の満足度



出典: H28秋期ぐるっとバス利用者ヒアリング調査

図 ぐるっとバスの満足度

(3) 交通状況の変化 (交通量)

○各年度の交通量調査の結果、ほとんどの交差点で近年は交通量が減少傾向にあります。また、平成25年以降、県庁東交差点では、ほとんどの方向で交通量が減少しています。

交差点交通量調査結果

単位:(千台/12h)

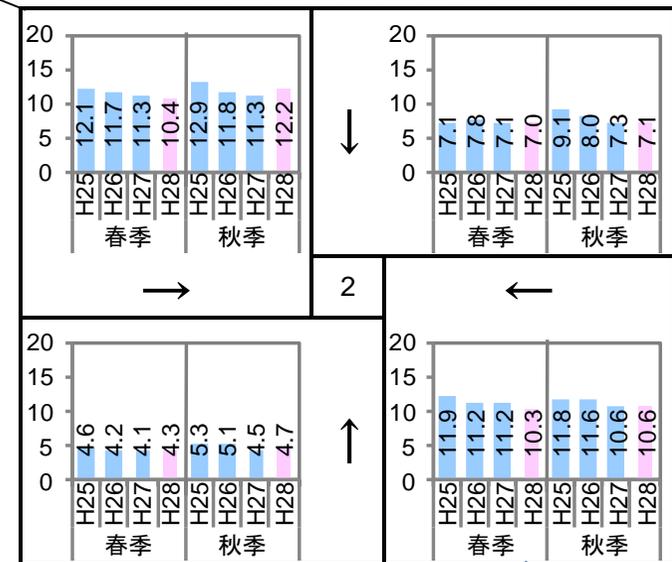
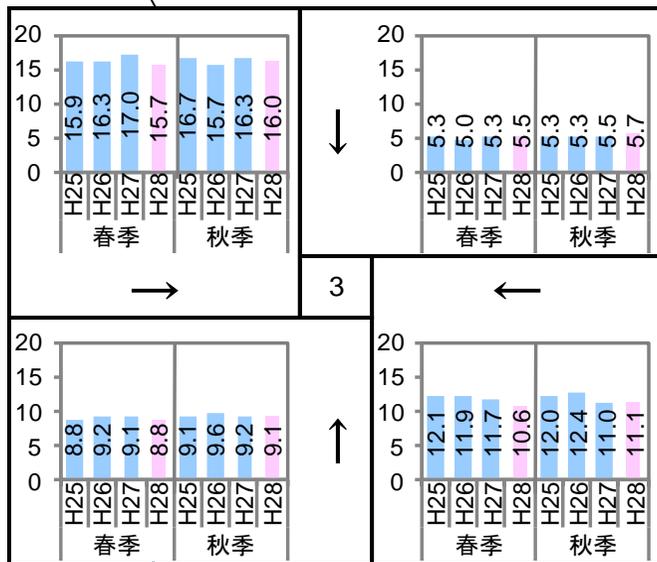
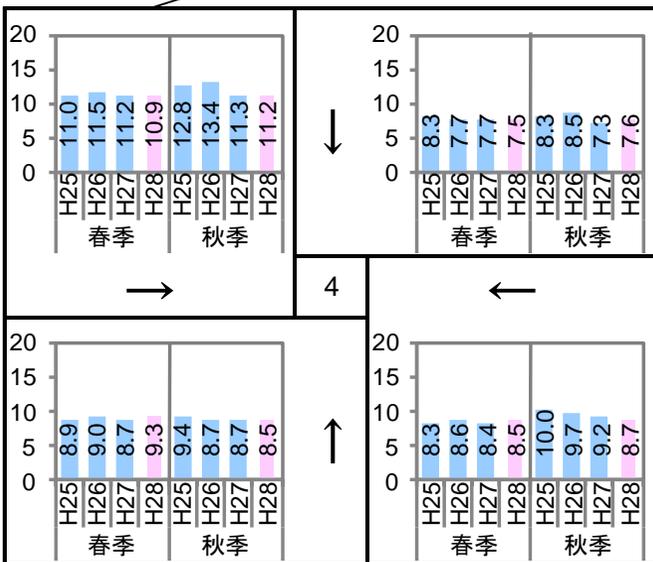
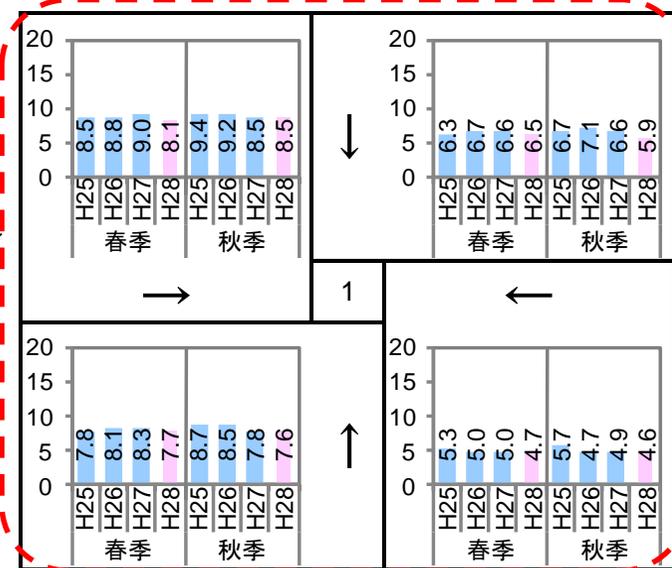


図 各年交通量調査結果

※出典:各年各期交通量調査

(3) 交通状況の変化（渋滞長）

- 県庁東交差点では、東行、北行と西行の渋滞は解消傾向にあります。南行は春期、秋期ともに平成26年以降悪化傾向にあります。
- 高天交差点では、秋期に渋滞が発生する傾向にあり、平成28年秋期は17時台に南行の渋滞長が、平成25年以降で最長となりました。

渋滞長調査結果

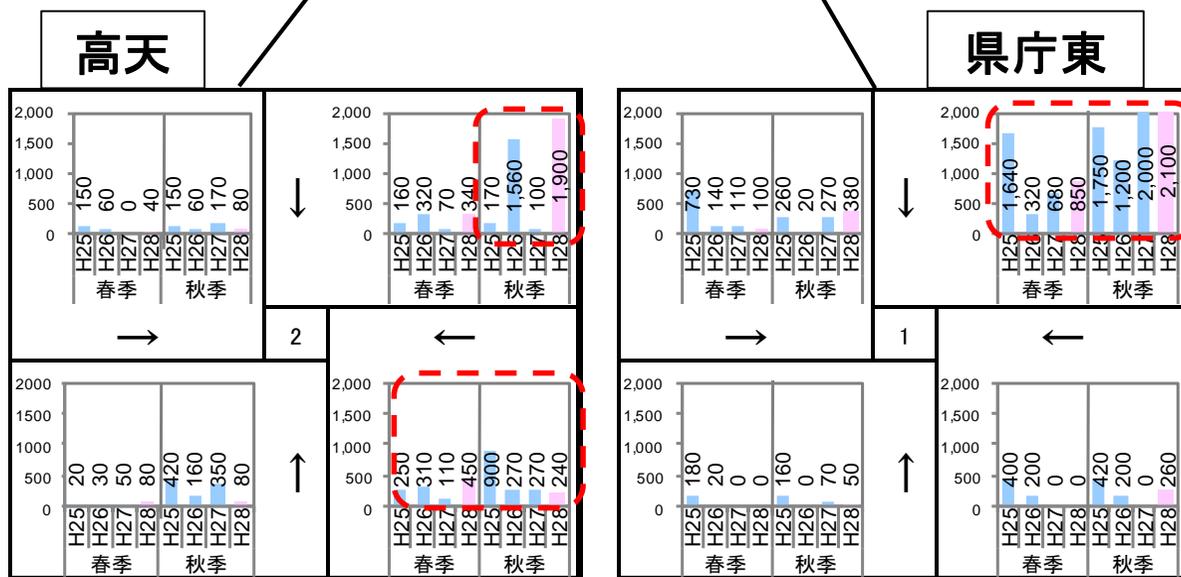


図 各年渋滞長調査結果

※出典：各年各期渋滞長調査

（4）現状と今後の課題

○各施策の満足度は高く、自動車交通量は減少し、大宮通り東行渋滞も解消傾向にありますが、帰宅車両集中により発生する渋滞の解消が課題として残されています。



(1) 基本理念

奈良中心市街地で、観光客・市民双方にとって移動のしやすい空間を創出するためには、自動車利用から公共交通利用への転換を促進することが重要であり、そのためには公共交通の利用環境向上に向けて取り組んでいくことが不可欠です。

行政・交通事業者の積極的な取り組みはもとより、市民・観光客などの関係者相互の協力により、公共交通で快適に移動できる地域を創出することを念頭に置き、次の理念を掲げるものとします。

地域に親しまれ、観光客に好まれる、公共交通網の構築による地域活性化の実現

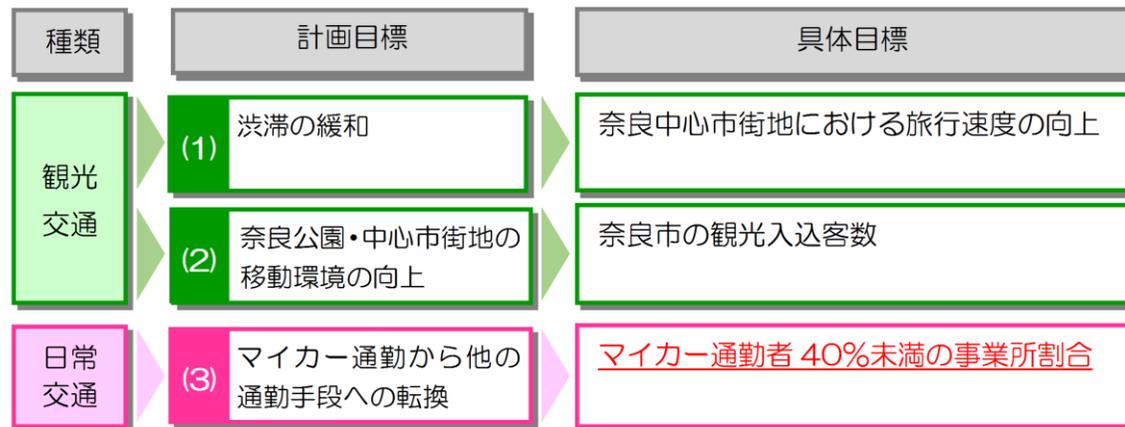
理念①：地域の快適性向上と活性化

理念②：観光客の満足度向上

理念③：世界遺産など、奈良の文化財や自然環境の保護

(2) 計画目標

本計画では、前回計画の基本理念を引き継ぎ、課題を解決するための目標として、奈良中心市街地において、過度に自動車に頼らず、公共交通で快適に移動できる交通体系の確立を目指します。



3. 奈良中心市街地の目指すべき交通のすがた

(2) 計画目標

赤字: 追加・修正項目

計画目標

(1) 渋滞の緩和

(2) 奈良公園・中心市街地の移動環境の向上

(3) マイカー通勤から他の通勤手段への転換

具体目標

奈良中心市街地における旅行速度の向上

奈良市の観光入込客数

マイカー通勤者40%未満の事業所割合

現況値

●●(km/h)
(平成28年秋期)

1,498(万人/年)
(平成27年度)

●●(%
(平成31年度)



※●●については、H28年2月に入手



平成29年1月に実施するアンケート調査結果より決定

目標値

20(km/h)以上
(平成31年秋期)

1,500(万人/年)
(平成30年度)

●●(%
(平成31年度)

備考

※7時～19時の12時間の平均旅行速度(km/h)
 ※奈良公園と平城宮跡など、主要な観光施設へのアクセス道として利用する主要道路である「大宮通り(国道24号東側)」を対象
 ※休日春期(H28): 西行き18.2(km/h)、東行20.4(km/h)
 秋期(H28): 西行き●●(km/h)、東行き●●(km/h)
 ※目標値は、公益財団法人 道路交通情報センター(JARTIC)の渋滞情報、「一般道路20km/h未満は混雑」を参照して設定

※奈良市内への観光入込客数
 ※奈良市第4次総合計画後期基本計画に記載の観光入込客数の目標値(平成32年度)より設定(奈良市第4次総合計画後期基本計画の目標値が見直された場合は、計画目標を見直す)
 ※入込客数は翌年11月公表のため、目標年度は平成30年度とする

出典: 奈良市第4次総合計画後期基本計画

※平成28年度「奈良市内事業所のマイカー通勤の実情に関するアンケート調査」におけるマイカー通勤者の割合が40%未満の事業所の割合

○計画目標を達成するための施策体系を以下に示します。
 ○施策実施にあたっては、関係機関と十分に協議しながら進めていきます。

(1) 施策体系

種類	計画目標	実施施策	モニタリング指標
観光交通	(1) 渋滞の緩和	1) 渋滞対策に資する効果的な広報の実施	①チラシおよびポスター配布枚数・箇所数 ②HP アクセス数 ③放送回数
		2) P&Rの実施	①P&R 利用台数 ②P&CR 利用者数
		3) 駐車場利用の平準化	①JR 奈良駅市営駐車場の利用台数
		4) 観光バスの需要調整	①予約台数 ②予約率
		5) 鉄道駅などでの乗り継ぎ利便性の向上	①木筒型一日乗車券の販売数
	(2) 奈良公園・中心市街地の移動環境の向上	6) ターミナルの検討	-
		7) 観光拠点間の移動環境の充実	①ぐるっとバス利用者数
		8) ならまち界隈の動線確保	①奈良町南観光案内所入館者数 ②京終駅乗降客数
日常交通	(3) マイカー通勤から他の通勤手段への転換	9) モビリティ・マネジメントの実施	①マイカー通勤抑制措置の取組割合 ②公共交通通勤への呼びかけ割合 ③交通マネジメントの実施割合

(2) 事業スケジュール

実施主体						事業計画期間		
奈良県	奈良市	JR	近鉄	奈良交通	協議会	平成29年度	平成30年度	平成31年度
○	○				○	検証・実施		
○	○				○	検証・実施		
○	○					情報の提供、検討		
○						検証・実施		
○	○	○	○	○	○	検証・実施		
○						設計・整備		
					○	運行・検証・整備		
	○					検証・実施		
	○				○	調査・検証		

赤字: 追加・修正項目

(3) 施策概要

○実施施策の事業概要は、以降に示すとおりであり、取り組み状況および効果を定期的に把握するために、モニタリング指標を設定します。

施策1: 渋滞対策に資する効果的な広報の実施

項目	内容	
事業期間	平成29年度～平成31年度	
概要	鉄道駅・高速SA/PAなどにおけるチラシの留め置き・ポスターの掲示	• これまでの広報事業を参考にして、効果が高いことが確認された鉄道駅や高速SA/PAにおいて、チラシ・ポスターによる広報を実施します。
	観光パンフレットを用いたマイカー利用削減のための広報実施	• 市、県が発行する観光パンフレットに道路混雑情報や公共交通の利用案内を掲載することで公共交通の利用促進を図ります。
	ホームページの充実	• 奈良中心市街地における観光目的利用者を対象に、魅力的な観光情報を紹介するためのポータルサイト「アクセスナビ」の情報充実化を図ります。 • 観光案内に加え、ぐるっとバス、P&R 駐車場などを分かりやすく示すことで、公共交通の利用促進を図ります。
	P&R の利用促進に資するラジオ・道路情報板などの情報提供	• 自動車来訪者に対して、奈良中心市街地で公共交通を利用して観光してもらうためにP&Rを推進します。 • P&R 駐車場に関して自動車運転中でも情報を取得可能な、ラジオや道路情報板、案内看板や横断幕の設置を行います。
モニタリング指標	指標①：チラシおよびポスター配布枚数・箇所数	赤字： チラシ：24,870枚、31箇所 ポスター：99枚、7箇所 (平成28年秋季)
	指標②：ホームページアクセス数	9,914回/月(平成28年11月時点)
	指標③：ラジオ放送回数	568回/月(平成28年)

分担率削除

実施主体削除

赤字：追加・修正項目

施策2: P&Rの実施

項目	内容	
事業期間	平成29年度～平成31年度	
概要	P&Rの実施・利用促進	• 「国道24号高架下駐車場」と「奈良市役所駐車場」などでP&Rを実施し、ぐるっとバスなどで観光周遊を促進し、奈良中心市街地の交通渋滞を抑制します。
	P&R 駐車場におけるレンタサイクル事業の実施	• 奈良市役所 P&R 駐車場に、放置自転車をリサイクルしたレンタサイクルを配備し、駐車場利用者の中で希望者に無料で貸し出すことで、P&CR (パークアンドサイクルライド) の利便性向上を図ります。 • 観光関連施設等に臨時駐輪場を設置、スタンプラリーや施設と連携した割引サービス等、レンタサイクル利用環境を向上します。
モニタリング指標	指標①：P&R 利用台数	250台/日(平成28年秋季)
	指標②：P&CR 利用者数	89人/日(平成28年秋季)



実施主体削除



平成28年11月時点のアクセスナビトップページ

レンタサイクル貸出風景

赤字: 追加・修正項目

施策3: 駐車場利用の平準化

項目	内容	
事業期間	平成29年度～平成31年度	
概要	分かりやすい駐車場案内の整備	円滑な駐車場利用を促進させるために、駐車場案内システムを整備するとともに、駐車場への案内・誘導を充実します。
	JR奈良駅周辺駐車場の利用促進	JR奈良駅周辺駐車場の料金見直しなどにより、奈良中心市街地における駐車場利用の平準化を促進し、渋滞の緩和を図ります。
モニタリング指標	指標①: JR奈良駅市営駐車場の利用台数	383台/日(平成28年)

実施主体削除

施策4: 観光バスの需要調整

項目	内容	
事業期間	平成29年度～平成31年度	
概要	観光ピーク期に観光バスが来訪する時間帯を分散し、駐車場への入庫待ちによる渋滞を解消するため、ウェブ上での予約を基本とする観光バス駐車場予約システムを継続的に実施します。	
モニタリング指標	指標①: 予約台数	145台/日(平成27年)
	指標②: 予約率	66%(平成27年)

実施主体削除

施策5: 鉄道駅などでの乗り継ぎ利便性の向上

項目	内容	
事業期間	平成29年度～平成31年度	
概要	情報案内強化による乗り継ぎ利便性の向上	鉄道駅からバスへの快適かつ円滑な乗り継ぎが可能となるように、鉄道駅にてバス停の位置やバスルートなどの運行情報に関する案内を行います。
	木簡型一日乗車券の企画・販売	奈良中心市街地内における公共交通による周遊観光を促進するために、継続的に木簡型一日乗車券を製作・販売します。
モニタリング指標	指標①: 木簡型一日乗車券の販売枚数	20,834枚(平成28年秋期)

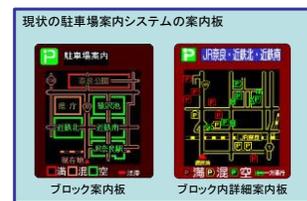
実施主体削除

情報端末利用者数削除

施策6: ターミナルの検討

項目	内容	
事業期間	平成29年度～平成31年度	
概要	(仮称)登大路バスターミナルの整備	奈良公園への来訪公共交通手段と公園内を走行するぐるっとバスとの交通結節機能を向上させるために、乗り継ぎ利便性向上に向けたターミナルの整備を行います。
	大宮通り新ホテル・交流拠点の整備	<ul style="list-style-type: none"> 県営プール跡地等に、コンベンション施設、屋外多目的広場、飲食・物販施設、駐車場及びバスターミナルからなる交流拠点施設の整備を進めます。 駐車場及びバスターミナルは、P&Rによる奈良観光の交通拠点として、また空港リムジンバス、長距離バス及び市内周遊バス(ぐるっとバス)の乗換拠点として活用することを想定しています。
モニタリング指標	-	

実施主体削除



駐車場案内システム整備イメージ



観光バス予約システムの画面



近鉄奈良駅でのぐるっとバス乗場案内



大宮通り新ホテル・交流拠点の事業者提案パース(イメージ)

施策7: 観光拠点間の移動環境の充実

項目	内容	
事業期間	平成29年度～平成31年度	
概要	<ul style="list-style-type: none"> 奈良公園や平城宮跡、ならまちなどの観光地、鉄道駅などを結ぶ周遊バス（ぐるっとバスなど）について、運行形態などを見直しながら、継続的に運行します。 	
モニタリング指標	指標①：ぐるっとバス利用者数	3,273人/日（平成28年秋季）

実施主体削除

施策9: モビリティ・マネジメントの実施

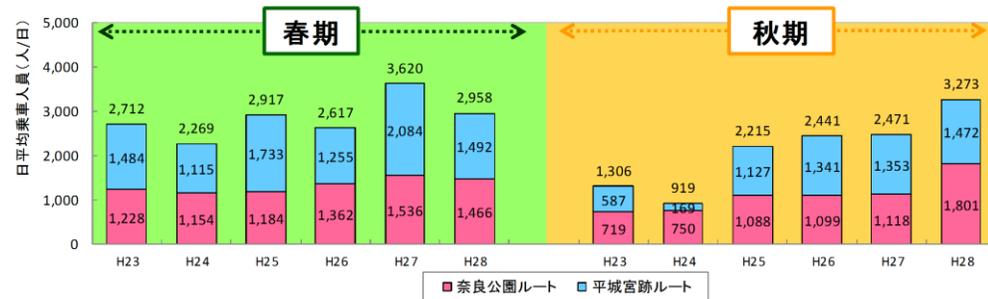
項目	内容	
事業期間	平成29年度～平成31年度	
概要	<ul style="list-style-type: none"> 毎年、奈良市内の事業所に対して、マイカー通勤の実情の把握と「エコ通勤」の啓発のためにアンケートを実施します。 事業所に対して、「エコ通勤」に関するチラシを配布し、通勤における公共交通への意識転換を図ります。 	
モニタリング指標	指標①：マイカー通勤抑制措置の取組み割合	●%（平成28年）
	指標②：公共交通通勤への呼びかけ割合	●%（平成28年）
	指標③：交通マネジメントの実施割合	●%（平成28年）

アンケート調査後記入

施策8: ならまち界隈の動線確保

項目	内容	
事業期間	平成29年度～平成31年度	
概要	<ul style="list-style-type: none"> ならまちエリアでは周遊型の観光客が多く、エリア内の広範囲に観光拠点が点在することから観光客のマイカー等による来訪が想定されます。このようなマイカーでの来訪者の集中による周辺道路の渋滞を避けるため、ならまち南エリアに公共交通機関での来訪を基本としたエントランスとなる拠点施設を整備することにより、観光客の動線を北と南の2方面に複線化します。 従来からの北方面の近鉄奈良駅からの動線に、南方面のJR京終駅から誘導する案内板を整備し、新たな動線を加えることにより、ならまちへの来訪を車に頼らずに鉄道や路線バスなどの公共交通機関の利用でできるようにします。 	
モニタリング指標	指標①：奈良町南観光案内所入館者数	3,075人/月（平成27年） *平成27年11月19日よりオープン
	指標②：JR京終駅乗降者数	1,404人（平成27年）

実施主体削除



※上記の利用者数は、春期は天平祭、秋期は正倉院展の開催期間を対象に集計

※利用者数は、日あたりの平均利用者

※平成25年度、平成26年度はならまちルートの利用者数を含む

ぐるっとバス利用者数の推移



赤字: 追加・修正項目

ならまち界隈で目指す観光客の周遊動線

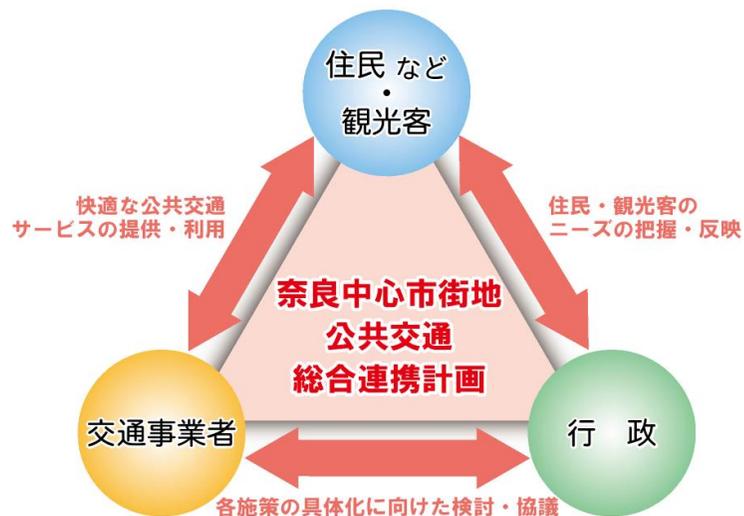
(1) 推進体系

- 本計画を確実に推進して実現していくためには、住民、交通事業者、行政など、それぞれが自らの役割を認識し、分担しながら果たしていくことが重要です。
- 事業主体は奈良中心市街地の交通状況および課題、基本理念・目標を相互に理解・共有し、緊密な連携を図りながらより快適な観光および日常生活の実現に向けて、公共交通で快適に移動できる地域の創出を進めていくこととします。

関係主体の役割

主体	役割
住民など	啓発活動などを通して、通勤、通学、私用などの全ての移動目的に関して、公共交通機関を使う意識を醸成し、無駄な自動車利用を減らして公共交通機関を積極的に利用する役割を担う。
観光客	広報などを確認して公共交通機関を利用する役割を担う。 やむを得ずマイカーでの観光客は、P&Rを積極的に利用する役割を担う。
交通事業者	企画切符などのサービスや広報活動をさらに充実させ、行政との連携を図りつつ公共交通利用促進を図る。また、交通モード間での連絡強化を図り、利便性の高い公共交通を構築する役割を担う。
行政	市・県・国が協働し、円滑な事業実施に努めるとともに、公共交通利用促進に関して、交通事業者を支援する役割を担う。

推進体系



(2) 事業推進に係る目標達成状況および施策効果検証の実施

- 奈良中心市街地における公共交通を取り巻く環境（利用状況、交通事業者の状況、行政の財政状況、社会状況など）は、時間の経過とともに今後も変化することが予想されるため、本計画で定める事業内容においても、その変化に適切に対応すべく、定期的な見直しを行うことによって、持続可能な公共交通の確率を図ることが重要です。
- 本計画では、PDCAサイクルによって、「計画の策定（Plan）、事業実施（Do）、評価（Check）、柔軟な見直し（Action）」についてマネジメントを行い、効率的かつ効果的な事業の実施へとスパイラルアップを図ります。
- 今後も定期的に協議会を開催し、PDCAサイクルに従って各モニタリング指標に基づいた評価を行いながら、改善を図りつつ、各事業を推進していきます。

PDCAサイクルによるスパイラルアップのイメージ



今後のスケジュール

第25回 協議会(平成28年12月19日)

【協議内容】

- ・奈良中心市街地公共交通総合連携計画見直し素案



第26回 協議会(書面による協議)(平成29年2月頃)

【協議内容】

- ・奈良中心市街地公共交通総合連携計画(案)
(平成29年度～平成31年度)